

第6次高浜市総合計画推進会議（第6回） 会議録			
日時	平成25年1月28日（月）午後7時00分～8時30分		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	9名
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	行政	財務グループ リーダー 竹内正夫（財政分科会リーダー） 人事グループ リーダー 野口恒夫（自治推進分科会サブリーダー） 文化スポーツグループ リーダー 内藤克己（生涯学習分科会リーダー） 教育センターグループ 主幹 梅田 稔（学校教育分科会リーダー） 経営戦略グループ リーダー 山本時雄（産業・観光分科会リーダー） 地域産業グループ リーダー 神谷晴之（産業・観光分科会サブリーダー） 市民生活グループ リーダー 山下浩二（環境・憩い分科会リーダー） 都市防災グループ リーダー 芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー） 都市整備グループ リーダー 平山昌秋（防犯・防災分科会サブリーダー） 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー） 保健福祉グループ リーダー 加藤一志（健康分科会リーダー） (11名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明（自治推進分科会リーダー） 同 主幹 三井まゆみ 同 主査 井野昌尚 同 主査 鈴木明美 同 主査 山本久美 同 主事 江坂摩由里 同 主事 中村彩 同 主事 市橋知樹 (9名出席)	
次第	1 あいさつ 2 議題 1) 「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」に対する行政の考え方・対応について 2) 「総合計画の目標達成に向けた取り組み」について 3) 高浜市の未来を創る市民会議の振り返りについて 4) 高浜市の未来を創る市民会議の進め方について 3 その他		

<p>資 料</p>	<p>資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第5回）会議録</p> <p>資料2：第6次高浜市総合計画推進会議からの提言に対する行政の考え方と対応</p> <p>資料3：「目標達成に向けた取り組み」テーマ一覧</p> <p>資料4：「目標達成に向けた取り組み」発表用フォーマット【案】</p> <p>資料5：平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」の振り返り 意見とりまとめ スケジュール【案】</p> <p>資料6：高浜市の未来を創る市民会議を振り返って（事務局による総括）</p> <p>資料7：高浜市の未来を創る市民会議を振り返って（メンバー用記入シート）</p> <p>資料8：第5回 高浜市の未来を創る市民会議 次第（サンプル）</p> <p>資料9：第6回 高浜市の未来を創る市民会議 次第（サンプル）</p>
------------	--

1. あいさつ

- ・第6回推進会議を始めさせていただく。本日の主な議題は、提言書に対する行政の考え方と対応について。
- ・第4回推進会議において市長に提出した「推進会議からの提言書」は、第6次総合計画のキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現を目指して、「絵に描いた餅にならないよう、生きた総合計画にしていこう!」、「目標達成に向けて、みんなで考え、みんなで行動していこう!」という想いから、市民会議の各分科会が、昨年度の総合計画の取組み実績を検証し、目標に向かってきちんと取組みの効果が表れているか、目標の達成状況や「みんなで目指すまちづくり指標」の点検・確認作業を経て、目標達成のために「もっとこんな取組みを進めたらどうだろう?」という市民目線からのアイデアを考え、推進会議でとりまとめたもの。
- ・その後、行政の方では、アクションプランの見直し、来年度予算案の検討に向けて、提言書を参考資料として活用されたことと思う。
- ・本日は、私どもが提出した提言について、総合計画に掲げた目標の達成に向けて、平成25年度という前期基本計画の最終年度を目前に、市民からの想いを行政がどのように受け止めたのか、どんな風に総合計画に掲げた目標の達成に向けて取り組んでいこうと考えているのかを、委員の皆さんに対してお返しいただき、また、市民の皆さんとキャッチボールをしながら、計画の検証から見出されたアイデアを基に「実行」を着実に進めていくこととしてまいりたい。

2. 議題

1) 「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」に対する行政の考え方・対応について

①発表

②質疑応答

各グループリーダーより、資料2『第6次高浜市総合計画推進会議からの提言に対する行政の考え方と対応』を基に説明。

行政：目標（1）市民とともに歩む経営を行います

- ・まちづくりのキャッチフレーズを広げる9つのアイデアをいただき、10～12月を重点期間として庁内に周知し、できるだけ早く実施できるものは実施するというスタンスで臨んだ。2ページに記載のとおり7項目については実施済み、予算の関係で、「④市役所の全ての封筒にキャッチフレーズを表示したものを発注し、使用する。」と、「⑤キャッチフレーズを表示した手作りプレートを作製し、公共施設に設置する。」の2項目については、来年度実施する予定。
- ・具体的な実施状況については、3、4ページ目をご覧いただきたい。大家族たかはまののぼり旗を作り、駅伝やシティマラソンなどで活用している。また、回覧板の表に大家族たかはまの焼き付けを行ったり、大家族たかはまジャンパーを作り、職員・市民合わせ約50名に着用いただいている。

目標（3）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います

- ・自治基本条例の副読本を活用した出前授業に出かけていこうということで、教

育委員会と連携し、2月7日にモデル校として、高浜小学校6年生3クラスを対象に授業を行う予定。現在、自治推進分科会のメンバーと一緒に授業の研究を積み重ねているところ。1月31日には、高浜小学校教員を招き、出前授業のリハーサルを行い、そこでご指摘いただきながら、より良いものにして、2月7日の本番に臨む。

- ・地域での副読本活用については、地域でもっと副読本を活用したいという声があるため、どのように使ってほしいということも地域にお示ししながら、来年度、副読本を活用していただきたい。

行 政：目標（2）次世代のために、健全な財政運営を行います

- ・提言を2ついただいた。提言1では、財政にゲーム的な感覚、遊びの要素を取り入れるといった発想、情報提供の仕方として、シリーズ化、タッチパネルの設置、財政の見える化といった、これまでにない斬新なアイデアをいただいた。
- ・実施状況としては、一部実施済みということで、今年度、分科会メンバー全員で考えた財政クイズを使ったクイズ大会を開催し、来年度は、クイズを活かした財政ゲームを制作していく。また、分かりやすい財政の話シリーズ化するとともに、若年層が利用する公共施設等において、タッチパネルの設置までではないが、ポスターなどのツールを活用して、まちの財政の見える化を図る。

- 行 政：
- ・提言2、行政運営の効率化については、2つのアイデアをいただいた。
 - ・行政課題が増加する中、限られた人員で仕事をするには、これまでの考え方、やり方では対応できなくなっている。そこで、平成25年4月より、行政運営の効率化を含め、高浜市の将来を切り拓いていくための知識と実践を身につける、将来の高浜市を担う中堅職員20名による「たかはま地域経営実践塾」を開講する。塾長には、高浜市の構造改革推進検討委員会でお世話になった、首都大学東京の大杉覚先生をお招きし、平成25年度1年間かけて取り組んでいく。

行 政：目標（4）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます

- ・3つの提言をいただいた。1つ目の、市内でどのような取り組みが行われているか、広く調べてみてはどうかという提言については、現在、行政が把握している生涯学習の組織を調査し終わり、調査結果一覧をとりまとめているところ。今後は、市民会議の皆さんを中心に、市民の皆さんへも調査をお願いし、取り組みを拾い上げていきたい。
- ・2つ目の、地域の達人を市の広報誌などで、チェーンネット形式で紹介してはどうかという提言については、広報たかはま2月15日号を皮切りに、ひと月に1回のペースで、紹介を続けていく。
- ・3つ目の、地域の達人が活躍できる場が必要ではないかといった提言については、現在、地域の達人が先生となり、市民の皆さんに教えてもらう「高浜（まち）の学校」について、今年の夏休みを目標に分科会を中心に話し合っ進めている。なお、3月17日（日）にお試し版を実施し、アンケートなどを行い、改善すべきところなどは、夏休み本番につなげていきたい。

目標（6）人のつながりやぬくもりの中で、子育て・子育てを支えます

- ・3つの提言をいただいた。提言1については、今年度実施した「笑顔の写真展」の会場で、絵本「わたしはね…」のラミネートパネルを掲示するとともに、「たかはま子ども市民憲章」の条文の掲示を行った。来年度も、笑顔の写真展で、ラミネートパネルなどの掲示を継続するとともに、表彰式の際には、絵本の読み聞かせを行っていく。
- ・提言2については、11月に実施された「あいっこイキイキ地域交流会（西三河大会）」と「わくわくフェスティバル」において、「たかはま子ども市民憲章」とその文面を説明する資料を掲示するとともに、笑顔の写真展のパネル掲示と来場者の人気投票を行い、PRに努めた。今後も、文化スポーツグループが所管するイベントを中心に、絵本のパネルや「たかはま子ども市民憲章」の掲出を行う。また、夏休みに実施予定の「高浜（まち）の学校」などで、親子や地域の子どもたち、地域の人たちとがふれあう授業を中心に、展開していく。
- ・提言3については、笑顔の写真展の展示場所を昨年度の1箇所から、今年度は、臨時展示も含めて3箇所に増やした。また、笑顔の写真展のパネルを市内5つの小学校に配布し、11月の1か月間、校内での設置をいただいた。来年度は、ご近所部門などを新設し、より多くの人に関われるようにしていきたい。

行 政： 目標（5）心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります

- ・2つの提言をいただいた。提言1については、年間を通して、学校でどんなことが行われているかということが、なかなか見えないため、その全体像を見れるようにしていきたい。
- ・具体的な実施内容としては、大きく3つ行ってきた。1つ目は、学校へ子どもの参加依頼が寄せられるような行事やイベントに、どんなものがあるかを調査し、課題を洗い出した。2つ目は、広報たかはまの毎月1日号に、市内7校による「学校通信」という記事を出しており、今の学校が、どんなことを必要としているのかということ、発信している。3つ目は、分科会メンバーで学校の公開行事に参加し、学校訪問しようということで取り組んでいる。
- ・提言2については、マッチングについて考えていこうということで、学校が多忙化している今、自然体で学校と地域が協働で何かできるような形にするため、来年度、学校と地域の人たちが集まり、情報交換する場を作りたい。

行 政： 目標（7）まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします

- ・2つの提言をいただき、提言1については4つのアイデアをいただいた。産直のPRについては、広報たかはま1月1日号に掲載した。また、昨年、特産物開発プロジェクト及び農用地利用改善組合において承認された「青なす」を、来年度から特産野菜として、野菜料理のレシピの募集を始め、イベントでの試食会、新たな加工品の募集等を始める。今後、新たな特産野菜の開発を初め、農用地利用改善組合の皆さんや市内の飲食店のご協力を得て、農業経営の安定に努めてまいりたい。

- ・提言2については、2つのアイデアをいただいた。昨年7月から鬼師の作業場見学を、市内5箇所で行っている。また、昨年6月と11月に刈谷市のハイウェイオアシスで鬼師の実演を、県外の三州瓦の展示会では、三州瓦のブランドの強化と鬼師の実演を合わせて、全国に情報発信している。今後も、関係機関と連携して、地場産業への支援を積極的に行っていく。

目標(8) 地域に根差した新たなビジネスの芽を育みます

- ・2つの提言をいただいた。まず、提言2について説明させていただくが、高浜市の自慢である、「瓦」、「鬼瓦」、「鬼師」、「とりめし」をつなげて、積極的に紹介してはというアイデアをいただいた。昨年10月には、北九州市で開催されたB-1グランプリにおいて、三州瓦と鬼瓦のパンフレットを配布するなど、情報発信をしている。あらゆる機会において、高浜市の自慢である、「三州瓦」、「鬼瓦」、「とりめし」の情報を発信していく。
- 行政： 提言1のコミュニティ・ビジネスの起業支援策については、運営資金等の支援策を考えてはどうかといったアイデアをいただき、平成25年度から実施していく予定。内容としては、起業しようとしている個人・事業者・市民公益活動団体に対して、創業支援、運営資金等の交付金を交付する制度を実施する。
- ・1月20日、「キラリ☆アイデア発表会」を開催し、5つのビジネス事業計画と、13のアイデア発表があり、地域で抱える課題に対してのアイデアを発表していただいた。
 - ・制度構築が、こうした起業に対する支援につながり、また、市民の皆さんからいただいたアイデアがコミュニティ・ビジネスにつながっていくよう、引き続き、検討を進めていきたい。

行政： 目標(9) みんなでまちをきれいにします

- ・3つの提言をいただいたが、共通点として、将来のまちづくりを担う子どもたちへの働きかけが必要だと考えている。いただいた提言については、全て一度実験をし、その効果を検証する必要があると考え、提言に対する行政の考え方と対応については、全て一部実施済みとなっている。
- ・例えば、提言3「ルール違反に粘り強く対応しよう！」に対しては、子どもが作成したポスターの掲示など試行的に実施ということで、港小学校4年生の児童に、環境学習の一環で描いていただいたポスター40枚ほどを看板にして、不法投棄対策にしたいと思う。全てを看板にするのは予算上難しいため、ラミネート加工をし、エコハウスや小学校などへの掲示も考えている。
- ・また、2つ目の提言「分別収集作戦を実施しよう！」に対しては、分別Q&Aの環境学習を、回覧板を活用して実施していきたい。一部地域ではすでに実施しているが、かなりの周知効果がある。

行政： 目標(10) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります

- ・2つの提言をいただいた。提言1については、一部実施済みということで、まち協に対し、青色防犯灯パトロール時に、道路標示や道路標識などの不良箇所

について情報提供をいただけるようお願いしている。今後、年数回行われる青パト講習会の際に、参加者に対し、情報提供の依頼をしていく。

- 行政： ・ 提言 2 については、第 3 回市民会議で、国道 419 号立体橋の桁色のアンケート調査を行い、黄土色ということで決定した。平成 24～27 年度にかけて、知立建設事務所が建設する。4 年後に、皆さんに決めていただいた愛着の持てる橋桁ができると思う。今後、こうした市民が参加できることを進めていきたい。

目標 (11) 自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます

- ・ 高浜緑地について、現在、芳川町にある 2.4ha の埋め立て地が造成されたところ。来年度から上部利用の設計が始まる。その中で、各種スポーツ団体やボランティア団体の皆さんと一体となって、有効利用し、愛着の持てるものになるよう検討していきたい。

行政： **目標 (12) 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます**

- ・ 4 つの提言をいただいた。提言 1 については、平成 25 年度に実施予定ということで、家庭・地域・学校・職場などで、「あいさつ運動」を展開するよう、広報たかはまに掲載するとともに、各種団体が実施している登下校時の見守り活動や PTA のあいさつ運動に、取り入れていただけるよう、依頼していく。
- ・ 提言 2 については、分科会で取り組みテーマ案の検討を行ったが、他にもさまざまなことに取り組むため、来年度には実施しないこととした。
- ・ 提言 3 については、現在、標高サインのシールを市内 600 箇所に貼っているが、第 2 ステップとして、コンビニ、医療機関など、不特定多数の人が利用する施設に対し、配布依頼をしていく。広報たかはま 2 月 1 日号に、表示場所の募集記事を掲載し、広く呼びかけを行う予定。また、2 月を重点月間とし、分科会メンバーで地域のコンビニや医療機関を訪問し、標高サインの設置を依頼する。平成 25 年度以降も、設置場所の募集は継続する予定。
- ・ 平成 24 年 12 月に、モデル的に高浜南部地区で津波避難訓練を行ったが、その際に指定した避難場所 2 箇所にも、先行的に標高サインを設置した。

行政： **目標 (13) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます**

- ・ 3 つの提言をいただいた。提言 1 については、市民への「New ボランティア人」の理解促進と、実践に向けてのアイデアをいただいた。現在、「かりや衣浦つながるねット」の新着情報に掲載している。また、わくわくフェスティバルでは、子どもからお年寄りまで、幅広い層の方から、「困っている人の手助けを行う」、「散歩時にごみを拾う」などの「New ボランティア人」の宣言をしていただいた。来年度中には、「いきいき健康マイレージ」との調整を図りながら、新たなマイレージ制度の仕組みづくりを行う。
- ・ 提言 2 については、登録方法の見直し、活動の場づくりなどのアイデアをいただいた。具体的な実施内容としては、ボランティア登録を地域の身近な場所で行えるよう、来年度中にその仕組みづくりと、まち協などへの働きかけを行う。また、困りごとへの支え手としての活動の場の創出やボッチャの運営参加者の

募集などにより、新たな活動の場を作っていく。

- ・提言3については、要援護者支援やボッチャでのつながりづくりのアイデアをいただいた。わくわくフェスティバルでは、ボッチャ大会に、障がい者や高齢者の運営参加のもと、30チーム102名の方に出場していただいた。3月6日からは、ボッチャ出前講座を開催する。また、災害時要援護者支援策として、来年度中に、福祉避難所の指定事業所や関係機関に協力を働きかけ、各種訓練や支援計画の作成を行う。

行政： **目標(14) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します**

- ・3つの提言をいただいた。提言1については、地域医療ネットワークを広げていくための市民への情報提供と、啓発活動について、アイデアをいただいた。実施状況は一部実施済みであり、特に、地域医療ネットワークについては、平成24年度より運用が開始されているため、仕組みを紹介し、なるべく多くの方に、かかりつけ医を持っていただくきっかけとなるよう進めている。平成24年10月から市内の医療機関で接続が始まり、運用されている医療機関も多くなっている。
- ・このネットワークについて、理解を深めていただくため、1月19日に、刈谷豊田総合病院の地域医療総合相談センターの職員をお招きし、講演会を開催したところ、多くの市民の方にお集まりいただいた。また、本日お手元に「上手なお医者さんのかかり方」というパンフレットをお配りさせていただいた。
- ・提言2についても、提言に基づき、出前登録会の実施や、案内チラシの送付など、具体的な取組みを進めている。
- ・提言3については、市民の健康保持と増進を目的とした保健医療推進協議会でご協議いただき、一次予防と二次予防の取組み、健康であることがいかに大切であるかを、しっかりPRすることが大切という意見をいただいたため、今後の取組みの中で活かしていきたい。

【意見等】

- 委員： ・出前授業については、2月7日に実施するが、これが見本となり、後に続くということが大切。1月31日には、これまでの練習の集大成として、リハーサルを行い、本番に備える。大家族たかしまジャンパーも分科会メンバーで揃えた。メンバーがみんなまとまってくれていることがとてもありがたい。上手に実施できると期待している。

- 委員： ・財政に関しては、数字をお示しすることになるため、押し付けになると、とても誤解を受けやすい。非常に熱心なメンバーに集まっていたため、誰がリーダーになってもつなげられるよう、進めていきたい。

- 委員： ・目標(4)については、現在、情報を集めているところだが、見やすくすることが課題。ただホームページに掲載するということではなく、集めた情報を整理し、パッと見てよく分かる形にし、皆さんが利用できるようにする配慮が必要。それが“見える化”だと思う。予算の問題もあるが、その辺りの

一工夫、二工夫が必要。

- ・達人と教えてもらう人とのつながりをつくるということで、3月に「高浜（まち）の学校」の試行版を実施する。本番を平成25年度8月ということを考えているが、一大イベントにしてしまうと継続性がなくなってしまう。まち協などそれぞれの団体が、こうした取組みをされているため、そういった団体と上手く連携をし、継続していきたい。
- ・目標（6）については、「たかはま子ども市民憲章」の想いを浸透させていくために、既存のものをいかに利用していくか、今やっていることをいかに広げていくかが大切ではないかと思う。新しいものをつくるのではなく、あるものの中から改めて良いと思ったことを広げていくことが大切。既存のものを上手く使いながら、私たちが協力させていただいてグレードアップし、皆さんに伝えていく足がかりのような形になれば、1つずつ広がっていくと思う。

委員： ・学校の授業と行事を「見える化」しようということで、まず、学校で何が困っているかという調査を行った。しかし、それだけでは把握しきれないため、学校の行事に分科会メンバーも参加させていただき、学校を訪問し、現地現物を行った。また、学校からも情報を発信していただいた。その中で、想いをマッチングさせていきたいと思うが、学校側と市民のやりたいことの想いは、結構 mismatch している。これをどうまとめていくのかということについて、今年度は、ワークショップなどを行い、非常に活発な議論ができた。今後もこういった形で継続していくと、市民側も意欲が出てくるのではないかと思う。

委員： ・農業分野では、特産野菜の開発を行っており、シティマラソンでも、豚汁の食材として提供していただいたり、活発に動いていただいている。多くの皆さんに高浜市の特産野菜を広めていきたい。

・三州瓦については、鬼師の皆さんもタカハマ物語以降、鬼をモチーフに、多くの皆さんと関わるということで、実演の見学も可能になっている。一步殻を破ったようにも思う。また、来年度行われる B-1 グランプリにおいて、瓦の PR ができるか分からないが、上手く活用したいと思っている。

・コミュニティ・ビジネスについては、1月20日に行われた「キラリ☆アイデア発表会」で、5名の方がビジネスプランの発表をされた。現実的にビジネスに直結する部分や、まだまだという部分もあったが、熱い想いを語られて、いろいろな方からアドバイスをいただき、5名の方の中から起業される方が出てくるだろう。ぜひ行政を中心に、しっかり支援をしていただきたい。

・また、アイデア発表で出た意見も、言わせっぱなしにするのではなく、行政がいかにそれを受け止めて進めていくかが重要。

委員： ・環境分野というのは、子どももお年寄りも市民全員を巻き込むことが必要。実行にあたっては難しい問題もある。これから具体化するために、2つのことを分科会で検討し、進めていきたいと考えている。

・1つが、これからの背負う子どもを巻き込むということ。小学校6年生くらい

が理解できる表現を使っていかないと、広まらないのではないかと。できるだけ、分かりやすい、見やすいものにしていきたい。難しい表現のパネルやビラがあったら、ご指摘いただきたい。

- ・もう1つが、全員を巻き込むためには、市外から引っ越してきた人、仕事が忙しい若い人、何を言っても通じない人、いろいろな人を巻き込んでいかなければいけないということ。

- 委員：
- ・目標（10）について、道路標示はかなり線の消えているところがある。予算の問題もあると思うが、メイン道路を中心に補修していただきたい。
 - ・目標（12）について、標高の見える化第2ステップとして、小学校区単位で行政から提示された69箇所を、分科会メンバーで2月から1ヶ月ほどかけて、標高サインのシール貼りをを行う。提示された69箇所以外にも展開する予定。
 - ・これまで、A4サイズで標高サインのシールを貼ってきたが、市民から「非常に分かりにくい」という声も上がっている。碧南市では、A3ほどのサイズで貼ってあり、見やすい。今後、コンビニ、医療機関、スーパーといった人が多く出入りする施設を重点的に展開していく。こういったところはA4が良いと思うが、電柱に貼るにはA4では小さかったかもしれない。こういった活動を通し、市民の皆さんに、標高の見える化を認識していただき、有事の際の参考にしていただきたい。
 - ・来年度は実施しないという「子ども110番」活動については、高浜まち協では、年に1回は、旗を立てている家と顔合わせを行い、継続のお願いをしていくようにしている。直接話をするすることで、設置する場所が適当であるかななどを検討する参考になる。意義ある子ども110番にしていきたい。

- 委員：
- ・安全・安心は、永遠のテーマであり、社会生活の基盤。あいさつは、意識改革さえすれば、誰でもできること。お金もかからない。私たちも協力し、関係各所にもお願いして、さっそく実行に移したい。
 - ・子ども110番の活用については、形骸化してきている。忍び込み、盗難、事件、事故、いろいろなことがあり、どうしたら防げるかということを議論すると、子ども110番を活用できないかという話がよく出る。設置しているお宅にもご協力をお願いして、進めていければと思う。

- 委員：
- ・分科会では、「New ボランティア人」の啓発をこれからも行っていく。ボランティアに対する皆さんの意識を変えていくため、「New ボランティア人」という新しい言葉を発信しているが、それにはまず、ボランティアとは、どんなことか、身近なことであるということなどを、広く、いろいろな方法でお示ししていきたい。
 - ・ボッチャの出前講座についても、意味だけでなく、市民の方に参加していただき、活動が進んでいくというように変わってきている。
 - ・ボランティアの意識がたくさんの方に芽生えて、地域で人と人がつながって、私たちが発信するだけでなく、多くの人に活動に参加できるという意識を持つ

てもらおう、気づいてもらおうというように、想いが届くことが必要だと思う。

委員：・分科会メンバーの大事な声を大切に受け止めて、出来上がった提言を生きた提言にしていかなければいけない。そのためには、いろいろな地域の多くの方に知ってもらうことが大切。インターネット、広報誌などの紙面、口コミ、いろいろな情報発信の方法があるが、中でも、一番説得力があるのが口コミ。面と向かって情報を伝えることが大切。そういった周知方法を分科会でも考えて進めていきたい。

委員：・環境に関連して、「キラリ☆アイデア発表会」で、ごみの立ち当番に立たなくていいようにするためのアイデアが提案として出されていた。町内会にお任せして、ごみの立ち当番、分別の意義ということ伝えていていると思うが、子どもから若い世代まで、なぜ分別をしなければいけないのか、なぜ町内会でごみの立ち当番があるのかといった基本的な意義が届いていない。ただやらされているという感覚になっている。子どもに伝えていくことも良い方法だし、若い世代にも上手く伝えていく手法を考えていただきたい。

・子ども 110 番の旗設置については、港小学区おやじの会でスタートし、10 年ほど続けている。年 2 回交換するため、枚数が足りず、自費（会費や事業収入）で独自に製作している。それが市内に広がったが、地区ごと団体ごとにバラバラで実施しているため、青パトの講習会などのように意義などを伝えたり、集約するための講習会などを開催していただくと、今後、市内全域での子どもたちの安全につながるのではないかと思う。来年度以降、実施していただきたいと思う。行政側も予算がないのは充分分かっているが、地域で一生懸命活動している団体がいることをご理解いただき、協力をしていただきたい。

会長：・取組みが進んできており、感動している。今、ごみの立ち当番が辛いという話があったが、地域住民で当番を回すことを当然と思っている地域住民の意識は「資本」である。地域社会は地域で支えていかなければいけないという意識が常識になっている。その常識のレベルが厚ければ厚いほど、その地域は、社会資本の装備が厚いとみなされる。その社会資本装備を豊かにするための総合計画であると、改めて感じた。その社会資本装備が薄くなると、何でも行政にやってもらおうという体制になり、最終的にはハイコスト・ローパフォーマンスにもつながっていく。行財政の健全化のために、地域住民の自治力を高めていくことは不可避である。これを「社会的関係資本」と言う。こうした目に見えない資本を厚くすることが、これからの自治体経営には大切。

委員：・各委員には、分科会運営を初め、感謝申し上げます。行政から考え方と対応について発表させていただいたが、一部実施済みが中心となっている。この進捗管理について、年度を越えた対応をしていく必要があると考えている。

・民間企業では当たり前になってきていることだが、今後は、高浜市の強みと弱みを明らかにする必要があると考えている。また、高浜市の社会経済環境、外部環境に対する、自治体としての政策上の問題も考える場合、民間企業では、

機会（チャンス）と脅威（ピンチ）を明確にすることが必要とよく言われている。こうしたことを明らかにすることで、高浜市の方向性や戦略が明らかになるのではないかと。職員の中でこういったことを考えるということ、2月に提言したいと思っている。これからは自治体間競争だとも言われている。今後の市民会議、推進会議においても、こういったことも活かされたいと思う。

会長： ・傍聴席には、幹部の皆さんもみえるようなので、ただ今、グループリーダーの皆さんが発表された決意、委員の皆さんが発言された想いを、しっかりくみ取っていただき、事業を進めていただきたい。

2) 「総合計画の目標達成に向けた取り組み」について

事務局より、資料3『目標達成に向けた取り組み』テーマ一覧』、資料4『「目標達成に向けた取り組み」発表用フォーマット【案】』を基に説明。

—意見・質問なし—

3) 高浜市の未来を創る市民会議の振り返りについて

事務局より、資料5『平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」の振り返り 意見とりまとめスケジュール【案】』、資料6『高浜市の未来を創る市民会議を振り返って（事務局による総括）』、資料7『高浜市の未来を創る市民会議を振り返って（メンバー用記入シート）』を基に説明。

【意見等】

- 委員： ・次の人への交代も視野に入れ、後継者を育てていきたい。
- 委員： ・非常にメンバーに恵まれ、活発に意見が出て、良い1年だった。今年度で動きが切れないように、来年度のメンバー選定も早めに考えて、動いていただきたい。
- 委員： ・今年度の市民会議の振り返りとして、昨年度の課題等から結果が出ており、非常に良かった。まとめ方も分かりやすかった。
- ・ただ、何点か気になる場所があった。資料6の6ページ目、「一定のPDCAサイクルが回り始めた」という記述があるが、何を言っているのか分からない。表現を変えた方が良いのではないかと。
- ・また、資料5で、4月に第3期の市民会議に向けて企画・立案となっているが、翌年度のプログラムは、3月中に計画を立てて、4月からPDCAが回し始められるようにした方が良いと思う。
- 委員： ・いろいろな会合を見ていると、顔ぶれが似通っている。せっかくこうした市民会議のような場があるため、新しい人を発掘するような動きがあっても良いと思う。現在の推進会議委員以外にも、新しい人を発掘していかないと、なかなか継続できないのではないかと。そういった視点から、推進会議委員も卒業もありで、新しい人、若い人を入れるような考えも良いと思う。
- 委員： ・新しい人は入れていただきたい。市役所職員OBからも農業関係に詳しいからがいる。ぜひ市民として入っていただき、農業分野を活発にして、上手くいく

ようにしていきたい。鬼瓦関係も、若い方が多くいる。一本釣りでも良いので、引っ張ってきていただきたい。

- 委員：資料4のサンプルについては、職員の中で、しっかり議論していただきたい。
- 委員：資料を見ると、事務局の勉強熱心さが伺え、1年間の総括が上手く回っていると感じる。以前よりも資料の字数が少なくなり、見やすくなった。傳承していく手順が、事務局の中でマスターされており、しっかり継続されていくと思う。
- 委員：防災分野では、行政職員にいろいろな資料を作っていただいたおかげで、上手く回っていると思うが、防災とは、緊急的なもので、いつ起こるか分からない中、対処していかなければならない。いろいろな取組みを行ってきたが、できるだけ多くの市民の方が、防災訓練や講演会に参加できるような形に持っていないと、一部の方だけではいけない。できるだけ広がりを持つような形の中で、各まち協、町内会、市民にも働きかけて、活動していきたい。
- 委員：南部地区では、早朝避難訓練を実施し、非常に驚くほどの参加者があった。見習うところだと思っている。今後ともよろしくお願ひしたい。
- 委員：資料づくりについては、大変だと思うが、分かりやすく総括していただいた。こういったユニークな組織が活動していることをお知らせし、「面白い」、「私も行こう」という気持ちをみんなが持てるように、参画意識を高める工夫が必要。職員も一生懸命、一緒に意欲的に取り組んでいる。「仕方がないから行く」ではなく、和やかで前向きに参加できる工夫をもう少ししてはどうか。
- 委員：今年度は、行政が主導的に動いていただき、見通しのつく提言をまとめることができた。
- 委員：最初は、高浜市がどう変わるのか、どういった立場で意見が言えるのかといった中で、楽しんで参加していたが、今は、力不足を少し感じている。取組が進んでいることは確かなので、力になれるように、考え方を整理していきたい。
- 委員：市民としては、行政の中の進め方で分からないところもある。そういったところを、行政職員に上手くリードしていただき、上手く進んだ。
- 会長：タカハマ物語について、見られなかったという方が非常に多い。もう一度、いろいろなところで上映し、皆さんに浸透していったら良いと思う。
- 会長：3月の第7回推進会議で、市民会議のあり方について提言としてまとめ、来年度の運営に反映していくため、市長へ提出することとなっている。
- 事務局：総合計画は作っただけでなく、具体的に実践する、実効性を担保するという観点からは、この市民会議という手法は大変有効だったと思う。今後も、皆さんの声を受け止め、来年度の運営プラン検討の準備を進めていただきたい。
- 会長：事務局より、補足があったらお願ひしたい。
- 事務局：メンバー募集については、広報たかはま3月1日号に掲載する。また、チラシも作成し、次回の市民会議で皆さんにお配りし、PRさせていただきます。
- 会長：3月から募集ということなので、皆さんからもお力添えをいただかないと、継続性が切れてしまうことになってしまう。よろしくお願ひしたい。

4) 高浜市の未来を創る市民会議の進め方について

①第5回全体会（2月5日（火））

②第6回全体会（3月上旬）

事務局より、資料8『第5回 高浜市の未来を創る市民会議 次第（サンプル）』、資料9『第6回 高浜市の未来を創る市民会議 次第（サンプル）』を基に説明。

—意見・質問なし—

3. その他

- 委員： ・ 1点、お知らせさせていただきたい。2月2日（土）～3月16日（土）の毎週土曜日、午前10時30分から、かわら美術館でタカハマ物語の上映を行う。また、3月24日（日）午後に開催されるバコハ祭りに合わせて、午前2回、午後2回上映を行う。ぜひ、お誘いあわせの上、ご覧いただきたい。
- 会長： ・ 委員改選期とはいえ、一斉に変わってしまうと、また一からのスタートになってしまう。ぜひ続けていただき、加えて、後継者、新しい方を入れていただけるよう、声かけをお願いしたい。
- 事務局： ・ 総合計画は基本計画が前期・中期・後期で構成されており、現在は、前期の期間。来年度は、前期の仕上げの年となるため、ぜひあと1年、推進会議の委員として残っていただきたい。

・議事録については、書面表決とする。

・今後の日程

第6回市民会議：3月1日（金）

第7回推進会議：3月22日（金）